第２　【事業の状況】

１　【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間のわが国経済は、順調な回復を続けました。堅調な個人所得に支えられた消費者マインドの改善による個人消費の伸びや輸出の緩やかな増加が生産や企業収益の増加につながり、設備投資の拡大を促しました。米国経済は、原油相場の高騰等により若干減速したものの、生産は増加しており、企業景況指数も高水準にあり、景気は拡大しました。欧州経済も、世界的な景気の回復を背景に外需が伸び、緩やかに回復してきました。一方、アジアでは、中国経済が投資過熱に対する懸念があったものの高い成長を続けており、タイ、シンガポール等東南アジア地域も世界景気の回復と中国の高成長に支えられ、好調な経済環境を持続しております。

当社は、かかる経営環境下で、今期より発足した松下電器産業株式会社モータ社との合弁事業統合会社であるミネベア・松下モータ株式会社を含め各事業分野で積極的に拡販し、生産活動の一層の効率改善、品質の向上及び高付加価値製品の開発に努めました。この結果、売上高は146,751百万円と前中間連結会計期間と比べ13,009百万円（9.7%）の増加となりましたが、電子機器事業の改善遅れにより営業利益は5,468百万円、経常利益は3,885百万円と、前中間連結会計期間に比べそれぞれ3,999百万円(△42.2%)、3,673百万円（△48.6%）の減少となりました。中間純利益は1,095百万円と前中間連結会計期間と比べ1,631百万円(△59.8%)の大幅な減少となりました。

① 事業の種類別セグメント業績を示すと、次のとおりであります。

機械加工品事業

機械加工品事業は、当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置（HDD）に使用されるピボット・アッセンブリー等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のネジ、並びに防衛関連製品であります。前中間連結会計期間に比べ主力製品であるボールベアリングは、家電業界・自動車業界・情報通信機器関連業界向けへの積極的な拡販により売上が増加しました。また、ロッドエンドベアリングも、米国を中心に売上が増加しました。一方、ピボット・アッセンブリーは、第１四半期におけるHDD業界の在庫調整の影響もありましたが、順調に売上を伸ばしました。これらの結果、売上高は57,350百万円と前中間連結会計期間と比べ1,685百万円（3.0%）の増加となり、生産効率の向上によるコスト削減等の結果、営業利益は10,478百万円と前中間連結会計期間と比べ1,300百万円（14.2%）の増加となりました。

電子機器事業

電子機器事業は、HDD用スピンドルモーター、ファンモーター・ステッピングモーター・振動モーター及びブラシ付DCモーターの情報モーター、キーボード、スピーカー、バックライト、並びに計測機器が主な製品であります。松下電器産業株式会社モータ社との合弁事業統合会社であるミネベア・松下モータ株式会社扱いの情報モーターは統合効果により売上高が増加しました。また、バックライト、計測機器も大きく売上高を伸ばしましたが、スピンドルモーターはHDD業

界の在庫調整の影響を強く受け低迷しました。これらの結果、売上高は89,400百万円と前中間連結会計期間と比べ11,324百万円（14.5%）の増加となりました。しかし、営業利益はHDD用スピンドルモーターの大幅生産減少によるコスト削減の遅れ、キーボードのタイより上海への生産拠点移転に伴う費用の増加、情報モーター部門の事業費用の増加及び生産統合に伴う費用等の発生もあり、△5,010百万円と前中間連結会計期間と比べ5,299百万円の大幅な悪化となりました。

② 所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日本地域

日本地域は、ミネベア・松下モータ株式会社の発足に伴い旧松下のモーター事業が新たに加わり、売上高は38,251百万円と前中間連結会計期間と比べ5,425百万円（16.5%）増加いたしましたが、情報モーター部門の事業費用の増加等で、営業利益は152百万円と前中間連結会計期間と比べ1,679百万円（△91.7%）の大幅な減少となりました。

アジア地域

アジア地域は、日本、欧米のパソコンや家電メーカー等の生産拠点として重要な地域であります。HDD関連業界の在庫調整の影響はあったものの、情報通信機器関連業界の需要回復や堅調な家電業界の需要に支えられ、販売は堅調に推移いたしました。一方、利益面ではHDD用スピンドルモーターの低迷、新たに発足したミネベア・松下モータ株式会社の生産統合に係わる費用の発生、キーボードの生産移行に伴うコスト増加など厳しい状況となりました。この結果、売上高は68,915百万円と前中間連結会計期間と比べ7,043百万円（11.4%）増加いたしましたが、営業利益は2,836百万円と3,743百万円（△56.9%）の大幅な減少となりました。

北米地域

北米地域は、情報通信関連顧客のアジアへの生産移管が進んだものの、キーボードその他の電子機器部品も堅調に推移しました。また、米国生産のボールベアリング及び主に航空機関連業界向けのロッドエンドベアリングは、民需・軍需からの需要が好調に推移しました。この結果、売上高は25,924百万円と前中間連結会計期間と比べ1,923百万円（8.0%）の増加となり、営業利益は2,284百万円と前中間連結会計期間と比べ1,832百万円（405.3%）の大幅な増加となりました。

欧州地域

欧州地域は、景気の緩やかな回復傾向が見られるなかで、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移いたしましたが、キーボード等電子機器が低調で、売上高は13,659百万円、営業利益は195百万円と、前中間連結会計期間と比べ、それぞれ1,382百万円（△9.2%）、408百万円（△67.7%）の減少となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減等を進めております。当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は21,087百万円と前中間連結会計期間末と比べ9,237百万円（77.9%）の増加となりました。

当中間連結会計期間の各活動におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

税金等調整前中間純利益3,391百万円及び減価償却費11,372百万円の発生に対し、たな卸資産の増加等による支出があった結果、営業活動によるキャッシュ・フローは13,059百万円の収入となり、前中間連結会計期間に比べ7,272百万円（125.7%）の増加となりました。

設備投資の支払いは11,329百万円と前中間連結会計期間と比べ増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは10,074百万円の支出と前中間連結会計期間に比べ2,498百万円（33.0%）の支出の増加となりました。

また、コマーシャルペーパー及び短期・長期借入金合計5,944百万円の減少等により、財務活動によるキャッシュ・フローは8,735百万円の支出となり前中間連結会計期間に比べ8,510百万円の支出の増加となりました。

なお、当中間連結会計期間に松下電器産業株式会社モータ社との情報モーター事業の統合に伴う分社型吸収分割により連結子会社であるミネベア・松下モータ株式会社が引き継いだ資産は16,542百万円、負債は11,472百万円で、現金及び現金同等物が1,596百万円増加しております。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	57,432	97.3
電子機器	88,369	108.5
合計	145,801	103.8

(注) 1．金額は、販売価格によっております。
2．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3．上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(2) 受注状況

当中間連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	59,002	105.6	36,326	108.6
電子機器	93,956	117.9	27,006	114.1
合計	152,958	112.8	63,332	110.9

(注) 1．金額は、販売価格によっております。
2．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3．上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	57,350	103.0
電子機器	89,400	114.5
合計	146,751	109.7

(注) 1．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2．上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

3 【対処すべき課題】

(1) 経営の基本方針

当社は次の「五つの心得」を経営の基本方針としております。

① 従業員が誇りを持てる会社でなければならない

② お客様の信頼を得なければならない

③ 株主の皆様のご期待に応えなければならない

④ 地域社会に歓迎されなければならない

⑤ 国際社会の発展に貢献しなければならない

この基本経営方針の下に、当社グループは「高付加価値製品の開発」「製品の品質の高度化」に積極的に取り組み、当社の実力を発揮出来る分野に経営資源を集中すると共に、「財務体質の強化」を中心とした企業運営の強化と社内外に対して解りやすい「透明度の高い経営」の実践を心がけております。

また、「環境保全活動」については、当社が世界各地で事業を展開する上で最重要テーマの一つとして従来から徹底した取り組みを続けております。

(2) 当面の課題

① 当社グループは上記会社経営の基本方針に基づき「徹底した一貫生産体制」「大規模な量産工場」「整備された研究開発体制」を世界各地で展開し、世界最強の総合精密部品メーカーを目指して収益性を高め、企業価値を引き上げることを目標としております。

これらを実現するための課題を要約すると、次のようになります。

１．ベアリングとベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる。

２．精密小型モーター事業を更に拡充し、ベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる。

３．全ての製品について高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応出来るようにする。

② ミネベア・松下モータ株式会社の発足

当社と松下電器産業株式会社モータ社は、平成16年４月１日付けで、両社の情報モーター四商品（ファンモーター、ステッピングモーター、振動モーター及びブラシ付DCモーター）事業を統合し、ミネベア・松下モータ株式会社を発足させました。

統合会社は、当社が持つ超精密機械加工技術、大量生産技術、及びコスト競争力と松下電器産業株式会社の最先端商品開発力を融合させ、競合他社に先行した優位性のある高付加価値商品の開発、開発スピードの向上、製造力及び顧客密着体制の強化をはかります。また、両社の高度な生産技術力と商品開発力の統合により、製造プロセスや設計手法の標準化の加速、マグネット・材料・高度解析技術の開発等により、大幅なコストダウンを進め、国際競争力のある事業展開をはかり、統合するモーター分野で世界一の地位を目指します。

③　新製品の開発成功

優れた性能・大量生産性・コスト競争力を有した２種類の新型流体動圧軸受ユニットの開発に成功しました。早ければ当連結会計年度末からの量産開始を見込んでおります。これら２種類のユニットをHDD（ハードディスクドライブ）搭載用スピンドルモーターに使用し、将来はスタンダード化して広く外部に販売して行くことも検討します。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、各種ボールベアリング及びその応用部品に代表される精密機械部品、ロッドエンドベアリング、高級ファスナーを始めとする航空機部品、また最先端の電子機器に使用される各種電子部品等の製造及び販売を行っており、それぞれの分野での研究開発は、当社及び世界に展開するグループ各社の技術部門間で相互に密接な連絡を取り効果的に進められております。

また、当社グループは軽井沢製作所、浜松製作所、タイ、シンガポール、中国、米国及び欧州の各拠点にR&Dセンターを有しております。

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は5,006百万円であり、この中にはタイ、シンガポール及び中国のR&Dセンターで行っている各種基礎材料の解析等、事業別に配分できない基礎研究費用145百万円が含まれております。

当中間連結会計期間における事業の種類別セグメントの研究開発活動は、次のとおりであります。

機械加工品事業

軽井沢製作所の主力製品である軸受部品におきましては、航空機用軸受製品としてアクチュエーター用ローラーロッドエンド、及びエンジン用パイロットベアリングの開発を行い、他のボールベアリング類やロッドエンド等と共にエアバスA380用に認定されました。ボールベアリングにおきましては、今後の拡販が期待されている液晶プロジェクターのブロワー用に、高温仕様かつ低騒音タイプのグリース開発を行っております。またプラスチック部品と組み合わせて使用される、ボールベアリングにつきましては、お客様が使用するプラスチック材料の多様化に合わせた、化学反応性の少ないグリースおよび防錆油の開発を継続しております。環境影響物質全廃の一環として、各種ステンレス鋼に対して共通で対応可能な、六価クロムを使用しないパシベーション処理（不動態化処理）工程の開発を行っております。

当事業の研究開発費は1,218百万円であります。

電子機器事業

技術本部浜松R&Dセンターでは、主に磁気応用製品やディスプレイ関連製品の材料技術・要素技術・製品技術について研究開発を行っています。磁気応用製品としては、主にモーター用希土類マグネットや、インバーター用トランス、ディスプレイ関連製品では、主にモバイル液晶用LED（Light Emitting Diode）バックライトユニット、中型液晶用LEDバックライトユニット、液晶TV用冷陰極管インバーター回路、プロジェクター用超高圧水銀ランプ用点灯回路、光学ユニットなどです。

これらの電子部品を開発していくため、当社の特徴である超精密加工技術や金型技術、精密樹脂成形技術に加え、CAD/CAE設計技術、光学設計技術、薄膜形成技術、フォトリソグラフィ技術などを組み合わせ、次世代モバイル液晶用バックライトユニット、中大型液晶用バックライトユニット、プロジェクター用光学部品、LEDモジュールなどFPD（Flat Panel Display）用光学部品の開発を進

めております。

更にアナログ回路技術や熱設計技術を組み合わせ、液晶TV用次世代冷陰極管インバーターやキセノンランプ用インバーター、超高圧水銀ランプ点灯回路などの開発を行っております。

大森製作所では、ブラシレスモーター用のセンサーやデジタル信号処理技術による新しいモーターの制御方法の開発を行っております。また、数値流体解析によりブロワーやポンプの性能を最適化する研究を行っております。

当事業の研究開発費は3,643百万円であります。